

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

高エネルギー加速器研究機構（以下「機構」という。）は、我が国の加速器科学（高エネルギー加速器を用いた素粒子・原子核に関する実験的研究及び理論的研究並びに生命体を含む物質の構造・機能に関する実験的研究及び理論的研究も包含した、広義の加速器科学を指す。）の総合的発展の拠点として、「素粒子原子核研究所」、「物質構造科学研究所」の2つの大学共同利用機関と、「加速器研究施設」、「共通基盤研究施設」の2つの研究施設を設置する法人である。第2期中期目標期間においては、加速器科学の研究の推進、共同利用の場の提供、国際共同研究の推進、大学院等への教育協力、社会への積極的な研究成果の公開を基本的な目標としている。

この目標達成に向けて機構長のリーダーシップの下、加速器科学の最先端研究により培われた基盤技術を生かし、加速器の医療・産業応用や大学の研究基盤整備に対する専門的な技術協力のほか、世界の加速科学研究拠点の一つとして、大型プロジェクトを確立しつつ、着実に推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、大学の研究基盤の整備等に対する専門的な技術支援について戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいる。平成26年度においては、大型低温重力波望遠鏡計画（KAGRA）の機器の設計・製作や、X線イメージングセンサー、さらには、次世代がん治療装置（BNCT）、半導体等の開発分野において技術支援を実施している。

（機能強化に向けた取組状況）

機構の研究環境の改革に向けて、機構長直轄の組織として研究支援戦略推進部を設置しており、平成26年度は、URA（リサーチ・アドミニストレーター）を9名採用し、外部資金獲得のための支援活動や、組織的な協定を締結するなど、国際的な共同利用、共同研究の支援体制を強化させている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 育児や介護に関する支援策の充実・強化

子育て期間中の教職員が安心して職務に専念できるよう、育児や介護に関する支援

策の紹介、教職員の経験談を掲載したウェブサイトを公開しているほか、育児支援の一環として、一般公開時の預かり保育を実施するとともに、子供たちの春休み期間中のベビーシッター利用の試行を行い、夏休み期間等へのさらなる展開を計画している。

○ 第3期業務改善アクションプラン等に基づく検討・業務改善

第3期業務改善アクションプランに基づき、①人材育成、②コミュニケーションの強化、③業務の見直し、④超過勤務の縮減・休暇といった課題ごとに検討を行い、事務の効率化・合理化等を図るための仕組みを構築している。また、共同利用実験に参加するための「課題申請・課題審査システム」を改善・整備し、利用者の利便性の向上と事務処理の効率化のための業務改善を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
- ③資産の運用管理の改善

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 資産の適正管理及びリユース等の有効活用

資産の適正な管理を行うため、使用責任者による定期的な使用状況調査、事務部門による現地調査・確認を実施しているほか、再利用が不可能となった不用財産(資産)については、除却処理を経た後、売却処分を進めており、未登録あるいは未利用自転車の撤去作業を通じ、自転車のリユース等の有効活用を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信の推進

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 一般公開・「KEKキャラバン」による研究成果のわかりやすい発信

加速器運転休止期間に開催している一般公開では、通常見学できない加速器等の公

開に加え、講演会や体験型イベントを実施しているほか、一般向けの公開講座を年2回開催している。また、教職員が各地の学校等に直接出向いて出前授業を行う「KEKキャラバン」を実施するなど、一般市民が直に科学に親しめるイベントを積極的に開催している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設・設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 実践的な取組を含む情報インシデント対策

重大な情報インシデントが発生しないよう、初任者研修時に情報セキュリティ講習会を実施するとともに、教職員並びに共同利用者を対象とした講習会やセミナーを開催し、教職員の意識向上に努めているほか、2度の「標的型メール攻撃演習」を実施するなど、研修会への参加だけでなく実践的な取組を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成25年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

(①研究水準及び研究の成果、②共同利用・共同研究の実施体制等)

○ Bファクトリー実験による新しい物理法則等の探求

Bファクトリー実験において得られたデータの解析を進め、新しい実験手法の開発による崩壊分岐比の精度を上げた測定や新物理の探索、新共鳴粒子の発見等に成果を上げているほか、「SuperKEKB 加速器」に対応した測定器の高度化においては、一部の新しく組み込まれた検出器により、宇宙線データの収集に成功している。

○ ニュートリノにおけるCP対称性の破れの検証

ニュートリノ実験施設の運転を再開し、T2K 実験及び他の原子炉実験による測定結果との組み合わせにより、ニュートリノにおける CP 対称性の破れの兆候を、間接的ではあるが、世界で初めてとらえるなどの成果を上げるとともに、さらに、CP 対称性の破れの検証精度を上げるため、反ニュートリノの測定を開始している。

○ ユーザー宿泊施設の増設等による共同利用者等の受入体制の整備・充実

共同利用者等の受入体制の充実のため、共同利用者等から要望のあった事項に応え、電子掲示板システムをつくばキャンパス内に 8 台設置するとともに、共同利用者等に対し、研究会やコロキウム等の情報提供を行っているほか、東海キャンパスではユーザー宿泊施設を 51 室増設し、100 室体制とすることで、共同利用者等の受入体制の充実を図っている。

〔③大学院等への教育協力〕

○ 「KEK スチューデント・デイ」による大学院生の異分野交流の活性化

総合研究大学院大学のほか、特別共同利用研究員や連携大学院など、機構で学ぶ大学院生が一堂に会することにより、日頃の研究成果を発表する「KEK スチューデント・デイ」を初めて開催し、口頭発表やパネル討論、複数の学生によるポスター発表などを通じて、所属、研究分野を異とする大学院生間の交流を活性化させている。